

## 平成30年度第3回府中市障害者計画推進協議会会議録

■日時：平成31年3月20日（水）午前10時から正午まで

■場所：府中市役所北庁舎3階 第1会議室

■出席者：（敬称略）

### <委員>

曾根直樹、真鍋美一、藤原里美、岩村聡子、鈴木卓郎、高橋美佳  
小澤輝江、栗山恵久子、古寺久仁子、村山孝、河井文、林比典子  
荻野和仁、渡邊信子、岡本直樹

### <事務局>

福祉保健部長、障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐  
地域福祉推進課長、地域福祉推進課長補佐、教育部指導室統括指導主事  
教育部指導室主任、障害者福祉課主査（2名）  
障害者福祉課事務職員（2名）

■傍聴者：あり（1人）

■議事：

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| 1 前回の会議録について              | 【資料1】   |
| 2 障害者計画の進行管理について          | 【前回資料3】 |
| 3 府中市障害福祉計画（第4期）の進行管理について | 【前回資料4】 |
| 4 その他                     | 【資料2】   |

■資料：

### 【事前配付資料】

資料1 前回会議録（案）

資料2 府中市障害者計画推進協議会スケジュール案（平成30年度～32年度）

参考資料 府中市障害者計画・府中市障害福祉計画策定のための調査

### 【当日配付資料】

席次表

資料1 追加資料 前回会議録（訂正部分）

資料3 追加資料 障害者計画（平成27年度～32年度）進行管理一覧表訂正箇所

## 議事

### ■事務局

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。委員18名中15名にご出席いただいております。本協議会の定足数を満たしておりますのでただ今より、平成30年度第3回府中市障害者計画推進協議会を開会いたします。

### (※ 資料の確認)

続いて、本日の欠席委員についてのご連絡です。本日は今野委員、岩村委員、村上委員より欠席とのご連絡をいただいております。本日の会議の進行につきましては次第に記載の通り、障害者計画及び障害福祉計画（第4期）の進行管理で前回に引き続き検討を主な議事としております。どうぞよろしく願いいたします。それでは議事に入りますが、本日は傍聴希望の方がいらっしゃいます。ただし、11時頃の入室とのご連絡をいただいておりますので、ここで傍聴の入室の承認及び進行は会長にお願いしたいと思います。

### ■会長

皆様、おはようございます。よろしく願いいたします。前回、丁寧に進めた関係で、今日は時間も非常にタイトになっていますけれども、議事進行にご協力をよろしく願いいたします。先ほどの傍聴希望の方ですけれども、会議規則に従いまして傍聴を許可したいと思います。皆様のご承認をいただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは到着次第入室いただくということにさせていただきます。ではお手元の次第に従って議事を進めさせていただきます。

## 1 前回の会議録について

### ■会長

議題の1、前回の会議録について事務局からご説明をお願いいたします。

### ■事務局

それでは、資料1「前回会議録（案）」をご覧ください。内容は記載の通りです。事前にメールで訂正依頼いただいている委員さんの分の訂正したものを本日、机上

に資料1を追加資料といたしまして置かせていただいております。訂正箇所につきまして具体的に申し上げますと、30ページの最後の行になります。「東京ジョブコーチなど2か所ほどある」というところが以前、「東京ジョブコーチとか2か所ほどある」という言葉だったのですが、「とか」を「など」に変えさせていただいております。続いて、31ページをご覧ください。上から3行目です。「また現段階では、」というところが以前は「また現段階で国に取られてほとんど、予約がかなり」というところがありましたが、それが「また現段階では予約がかなり」というに言葉を変えさせていただいております。もう2点事務局から追加の訂正がございます。資料1「前回会議録(案)」をご覧ください。6ページの下に会長のおっしゃったところがあります。会長の2行目の「1つは「障害者計画」でこれは2年計画です。」とあります。この障害者計画が6年計画になりますので「1つは「障害者計画」でこれは6年計画です。」に訂正したいと思います。最後にもう1点ですが、20ページの真ん中に委員の発言がございます。委員の所属のところなのですけれども、記載されている20ページの委員のところだと「精神障害者福祉センター施設長」とありますが、こちらは建物の名称が心身障害者福祉センターになりますので「精神」を「心身」という言葉に訂正したいと思いますので、こちらは改めて訂正させていただきます。その他に特に訂正点なければ承認いただきまして、手続き通り公開に移らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上です。

■会長

ありがとうございました。資料1に書かれているものと今日お配りいただいた追加の付属の提出物と伺っていたのですけれども、いずれも軽微の修正ということだったと思うのですけれども、会議録について何かご意見がありましたらお伺いします。

(発言者なし)

■会長

よろしいでしょうか。特にご意見ないようですので、これで会議録については確定ということで、事務局の方で公開手続きをお願いしたいと思います。

## 2 障害者計画の進行管理について

### ■会長

続きまして議事の2番、障害者計画の進行管理についてです。ここからは時間をきちんと区切っていかないと本日が年度最後の会議なものですから、これ全部をやりきれないといけない事情がありまして、この割り当ての時間が来たら事務局からベルを鳴らすということです。なるべくご質問やご意見についてはコンパクトにさせていただきまして議事進行へのご協力をお願いしたいと思います。では事務局から説明をお願いいたします。

### ■事務局

前回資料3、障害者計画の進行管理一覧表をご覧ください。本日の進め方なのですけれども、前回の目標1及び2の質問に上がりました項目の訂正箇所を資料3の追加資料として本日机上に置かせていただいておりますが、そちらを基に説明をいたしましてその後に、前回回答出来なかったものの回答をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### ■会長

資料3の追加資料、お手元にご用意いただけましたか。

### ■事務局

なければ事務局で配布しますのでお忘れの方はお知らせください。よろしいでしょうか。

(発言者なし)

### ■事務局

今回、目標1、2の回答や訂正箇所を説明させていただいた後に、前回引き続きの目標3の方に進行管理をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まず訂正箇所になります。資料3の追加をご覧ください。事業番号7番です。「福祉サービス第三者評価制度の普及・促進」という事業名でございます。前回、高齢のサービスが入っておりましてこちらを省かせていただいて、平成29年度の実行のところですが、「市立心身障害者福祉センターにおいて児童発達支援事業と機能訓練事業の第三者評価を受審」というところで受審施設数として12か所というふうに訂正させていただいております。続いて、事業番号9番になります。次

のページをご覧ください。事業名が「サービス等利用計画を作成する事業所の拡大【新規】」というところで、まず備考欄のところにセルフプラン率が依然として高いと記載をお願いしますということがございましたので、備考欄に「セルフプラン率が依然として高い」と記載させていただいております。続いて同じ項目なのですが P l a n のところですが、てにをはが違うというご指摘いただきましたので直させていただきます。「事業所数は増えてきており、参入の促進を図りつつ、既存の事業者が作成する計画の質を向上させることも必要となっている。相談員のスキルアップを目指し、府中市特定相談支援(障害児相談支援)機関連絡会を実施する。」ということで、「を」と直させていただきます。「事業所数は増えてきており」というところが、違和感があるという委員のご意見もあったのですがこちらは近年につきまして、増加傾向にあったのですが平成28年、29年については事業所数の増減はなく、また30年については3か所事業所が増えているなどの状況がございまして、こちらの「事業所数は増えてきており」というのは増加傾向もありましたので、言葉はこのままと回答させていただきます。よろしく願いいたします。事業番号9番については以上です。続いて、事業番号14番になります。次のページをご覧ください。「ピアカウンセリングの充実」というところです。平成29年度の改善(A c t)のところですが、こちらの①の訂正がございましてご案内させていただきます。み～なの相談件数は大きく増加しているという文面があったと思うのですが、こちらみ～なの相談件数は近年大きく増加しているということで「近年」という言葉を付け加えさせていただきます。ピアカウンセリング自体は平成28年度に比べますと減少しておりますが、27年度以前は50件前後なので近年増加しているという表現を踏まえて、「近年」というところを追加させていただきます。また出前講座は件数に含んでおりません。前回「特に」の以降の言葉も改善が必要なのではないかというご意見いただいているのですが、小中学校などの出前講座は内訳としては増加しているため文書はそのままにということになりました。続きまして、事業番号61番、「緊急一時保護事業」のところでございます。こちらのA c tのところですが、例年は検討していくと続いているが、検討してどういう状況なのかということを書いた方がいいのではないかとのご意見に対しまして、改善させていただきました。②番「医療的ケアを含む緊急一時保護の実施を検討したが、」の後に難しいということで、検討させていただいているのですけれども依然、状況が難しいということで「難しい」という言葉を入れさせていただきます。続きまして、事業番号62番、「地域生活支援拠点の整備」のところになります。こちらは委員から事前にご意見いただいております。29年度のA c tのところは障害者等地域自立支援協議会で検討となっているが、P l a nが30年で障害者福祉課の方で検討と書いてあるところですが、ここはP l a nを変更させていただ

での対応をさせていただきました。30年度のPlanを変えさせていただいて「地域生活支援拠点に関して障害者福祉課内で情報収集及び整理する」と言葉を変えさせていただいております。訂正点は以上になります。続いて前回、回答出来なかったところに関しまして事務局から回答させていただきます。まず前回の資料3をご覧ください。目標1から順番に説明させていただきます。目標1の3ページです。3番の事業番号で「コミュニケーション手段の確保」というところです。②のパソコン講習会の開催がないのに評価は○でいいのかというところですが、こちらのパソコン講習会ですが利用者の希望があれば開催するものになっております。今回は講習会の希望がなかったため、開催がされないというところで0件になっております。希望があれば開催出来るというところでありましたので評価は○のままにさせていただいております。続いて、目標2の29ページ、29番「就労支援事業を中心とした就労支援体制」というところで評価のところになりますが、充実した支援であるか、どうして○の評価かというところがあったと思うのですが、確かに相談件数は平成29年度減っているのですけれども、新規の就労者数は増えているという現状がありましたので、評価としてはそのまま変わらず○とさせていただきたいということになっています。事業番号31番、「障害のある人を対象とする職員採用資格試験の実施」というところですが、採用数は何人ですか、平成29年度の結果及び在籍の職員なりの合計数というところですか。こちらは29年度試験を実施し30年度入庁については0人となっています。在籍者数は12名となっています。続きまして教育の回答ということで本日、指導室から統括指導主事と主任が見えておりますので、回答をお願いしたいと思います。

#### ■教育部指導室

指導室より前回ご質問があった点について随時お答えいたします。まず事業番号21番についてですが、教育センターに関して様々なご質問があり、一律にお答えしているとかなり時間がかかってしまいますので、簡単にお答えさせていただきます。まず、教育センターの相談事業において全体的に不登校とお子さんの発達に関する相談の件数が多くなっております。教育センターで実施している相談は、教育相談、就学相談、巡回相談、スクールソーシャルワーカーによる学校支援があります。どの相談におきましても先ほど申し上げた不登校、発達に関するご相談が増えています。平成30年度に就学支援協議会関係を書かせていただきましたのは、近年、特別支援教室の立ち上がりに伴い特別支援教室に関する相談だけではなく、就学や転学に関する相談件数が大幅に増加しているためそのことについて書かせていただきました。続きまして、事業番号23番「特別支援教育の充実」というところで、教育研修の実施について参加者が年々数値としては下がっているが、○になってい

るのはどうしてなのかということでしたが、こちらにつきましては研修の内容について年々中身を充実させて対応しております。学校では働き方改革ということも言われておりまして、実は先生方は特別支援教育だけではなく、様々な研修、会議等々があり、基本的には授業の時間に開催されます。この特別支援教育に関する研修は、実は悉皆に近い形で研修を開催しております。ですので、人数としては下がっているのですが、研修の内容について充実させて対応しております。最近につきましては授業のユニバーサルデザインとか、今年度から小学校で全校実施になった。特別支援教室はどういうものかといった内容について、周知させていただいております。また、市内の特別支援学級や府中市に関わる都立特別支援学校の取り組み、内容といったことを一般の先生方に知っていただくような研修内容になっております。周知については達成されているということで○と表記させていただきました。「特別支援教育の充実」の平成30年度が大幅に変更になった背景とはというご質問ですが、特別支援教育に関することはここ十年間で様々進んできております。府中市における課題を踏まえて取り組む必要がございますので、少し変更しております。先ほども申し上げた通り特別支援教室につきましては、全ての小中学校に、現在導入段階です。今年度から全小学校に導入し、今後中学校にも進めて参りますのでそういった内容のこともありますし、これまでは都立特別支援学校のセンター校との連携ということが強く書いていなかったのですけれども、特別支援学校との副籍、交流及び共同学習、エリアネットワーク等々で、やはり府中市もきちんと繋がっていかなくてはいけないというところで書かせていただいております。また、就学前機関との連携も就学相談におきましては非常に大事なことですので、書かせていただきました。それから特別支援教室、通級指導学級、固定学級ありますけれども、それぞれの指導内容についても充実が求められておりますので、関連することも書かせていただいております。最後です。事業番号25番になりますが、「通学時等の支援の検討」とありますが、ここに関しては、教育の立場からは学校に通う生徒の授業等の学校生活の対応について特化させて書かせていただいております。平成28年度から導入された合理的配慮支援員の活用に関する周知と適切な活用については、十分学校現場に知っていただく必要がございましたので、平成29年度、30年度につきましてはそこに特化させていただいております。またご質問にありました「合理的配慮支援員と学校経営支援員の違い」ですけれども、平成28年度から導入された合理的配慮支援員というのは、この名前が付いている通りです。合理的配慮として通常の学級、それから特別支援学級の学校生活において合理的配慮として人的支援が不可欠なお子さんに付ける支援になっております。また、学校経営支援員というのは学校の経営課題に合わせて、学校長が作成する学校経営計画に則って学校長の裁量で付けられる支援員になっております。生活指導や水泳指導、図書館利用とい

ったカテゴリーがいくつかあるのですけれども、その中に特別支援教育というものも含まれており、学級で見守りが必要なお子さんがいる場合に、学校の経営の指針として特別な支援を要するお子さんがいる学級を重点的に支援していくという場合に、そこに重点的に付けられる支援となっております。指導室からは以上です。

#### ■会長

では前回ご質問いただいた点、修正を求められていたところについてのご回答は以上ということですのでけれども、何かご質問、ご意見お願いいたします。

(発言者なし)

よろしいでしょうか。前回の質問への回答ということで了解いただけたということにさせていただきます。続いて、資料3の「目標3」について事務局からご説明をお願いします。

#### ■事務局

それでは事務局から「目標3」の「△」、「×」、「－」の理由を述べさせていただいた後に、事前に質問でしたり、前回残させていただいた「目標3」についての回答をさせていただきます。前回の資料の「目標3」ですので、ページ数としては37ページからになります。まず46ページを開いてください。事業番号としては48番、事業名「未利用都有地等の有効活用」というところになります。29年度の評価が「－」になっていますが、その理由としては平成28年度と同様に東京都からの募集がないため未実施になっており、東京都から募集があった際には各法人に意見を伺い活用の検討をしていきたいと思っております。続いて63ページをご覧ください。事業番号68番、事業名が「重度身体障害者（児）住宅設備改善事業」のところになります。こちらの評価が「－」となっておりますが、こちらは48ページの事業番号50番「地域生活支援事業」の方に28年度から記載させていただいているため「－」としております。続いて65ページをご覧ください。事業番号70番、事業名が「訪問支援」のところで評価が「△」になっています。理由としては、国や東京都に要請していないためです。続いて70ページ、事業番号75番、事業名が「自立支援医療・医療費助成の充実」のところになります。29年度の評価が「×」になっています。この29年度の実行の部分で東京都・市障害担当課長会を通して要望をしていないためとなっておりますが、東京都心身障害者医療費助成制度の対象者拡大の流れがあり今回要望を見送ったという経緯があったので、「×」となっております。続いて77ページ、事業番号86番、事業名が「年金や手当の充実」のところになります。29年



度の評価が「△」になっておりますが、こちらは実行の②の部分「手当の支給」に対して、東京都・市障害担当課長会において要望していないためです。最後に79ページ、事業番号88番、事業名が「福祉避難所の確保と在り方の検討」のところになります。29年度の評価が「△」になっておりますが、こちらは各課と協議を行っているが具体的な取り組みに至っていないためです。目標3の評価の理由については以上となります。前回ですが、39ページ、事業番号39番、事業名が「在宅の重度障害がある人に向けた支援の充実」というところで、前回の事業の実績としてお伝えした在宅レスパイトの実績はいかがですかというご質問ですが、回答といたしましては平成29年の7月からサービスが開始され登録者は11件、延べ利用人数としては16人となっております。事務局からは以上です。

■会長

ありがとうございました。質疑の前に、今ご説明いただいた中で前回と同じ回答があったと思います。65ページの「訪問支援」のところで訪問看護の充実を要請していないため「△」としていますが、要請していない理由を教えてください。もう一つ、77ページの「年金や手当の充実」のところでこれも東京都・市障害担当課長会において要望していないためと前回していますが、これはなぜだったかということをお聞かせください。いかがでしょう。

■事務局

改めて確認させていただいてもいいですか。

■会長

はい。すみません。今回初めてご説明されたのですよね。私が前回自分で見て疑問に思ったことのメモを聞いてしまったのでしょうか。皆さんからご質問ありますか。はい、委員。

■委員

71ページの事業番号76番「児童発達支援」のところなのですが、メールで事前にお尋ねしてありますが、医療型児童発達支援のD○の実行のところの②実利用者数は、多摩療育園のことなので62人もいらっしゃらないと思います。確認をというふうをお願いしてありましたがどうなっていますか。

■会長

事務局、お願いします。

■事務局

今のご質問のところについては事前にご質問いただいております、確認したところ、確かに実利用者数が62人ということで担当者から確認をさせていただいております。

■委員

医療型児童発達支援は都内に4つしかなくて、3つは23区にあるので、こんなに通っている方がいるとはどうしても思えないのですが、

■会長

医療型児童発達支援だけの利用者数ということでよろしいのでしょうか。

■委員

もしかしたら重心の人とかを混ぜていますか。児童発達支援（重心）の人を混ぜていらっしゃるかもしれないので、平成27、28年の統計の取り方が違うと思います。

■委員

基準が違ってしまう。

■委員

急に増えていますよね。

■事務局

医療型の児発の関係だと確かに市内に1か所で人数の方も少ないと思っているのですけれども、通所の関係でメロディとか、

■委員

それは児童発達支援（重心）です。

■事務局

そこで何を対象にするかというところを整理したいと思います。

■委員

平成27、28年度も含めて、確認していただければと思います。

■会長

児童発達支援だけではない可能性があるということですね。

■委員

おそらく平成29年度だけ他の児童発達支援を入れてしまったのではないかと推測されます。

■会長

医療的ケアが必要な人で利用者数にカウントした可能性があるということですね。その確認をしていただいてよろしいですか。その他、いかがでしょうか。はい。委員。

■委員

数字の見方の確認なのですが、一例を挙げさせていただきますと64ページ、事業番号69番「地域生活への移行と定着」でそれぞれの年度のD○のところで、実利用者数が地域移行支援と地域定着支援に関して出ておりますが、ここに出ている数字と後ろの参考資料の資料4の3ページの下の方に(4)相談支援サービスというところがございまして、そこにも地域移行支援、地域定着支援の各年度の実績が書いてありますが、数字が違いますよね。資料4の3ページの数字と64ページの69番「地域生活への移行と定着」に書いてある数字は違う数字が実績として書いてあるので、資料4の方の実績の数というのはおそらくその年度の3月末の時点での利用者数をそちらの方には書いていただいていると思うのですが、64ページの方はそうではない数字の出し方になっていると思います。年間の支給決定者数だと思うのですが、なぜ違う数字がここに書き込まれているのかということと非常にわかりづらい、見づらいことになります。64ページの方の数字の説明をしていただかないとわからないということにもなりますし、それと同時に64ページの69番に関しましては評価として全て○ということになっていますが、一方で計画の量を判定するところと言うと、地域移行支援、地域定着支援などは△か×というようになっているので、計画量からすると全然支給が出来ていないということが出ていたりする訳ですので、見比べると大変わかりづらいことになっていますので、その辺りをもう少しわかりやすいように解説をしていただくなどということが必要かと思えます。

■会長

はい。ありがとうございました。今の質問ということでよろしいでしょうか。まず

は数字と評価の差の理由ですね。事務局からお願いいたします。

■事務局

申し訳ございません。この数値に関しましても改めて整理をさせていただいて、答えさせていただきたいと思います。

■会長

はい。委員、お願いします。

■委員

先ほどの説明でわかりにくかったのですが、65ページ、管理番号70番「健康づくりへの支援」の訪問支援の訪問看護師の部分なのですが、都に要請していないので、△というような返事をいただいたのですが、この項目が医療保険の訪問なのですよね。ここの部分の30年度のPlanの中にレスパイト派遣事業という福祉サービスの方が入ってきてしまっていて、これはその前の39ページ、管理番号39番に別に「レスパイト派遣事業」というのが新規項目で入っていて、それが一緒になってしまっていて、訪問看護師のレスパイト派遣事業に関しましては管理番号39番で先ほど数字の報告もありました。こちらで完結しているので、それをまた別に管理番号70番に入れるのはちょっとおかしいと思っていて、ここは健康づくりなので、おそらく医療保険の訪問看護の要請で、これを国に要請するとしたら医療の方の要請になってしまうので、福祉サービスというよりは医療の要請になりますよね。そこをきちんと分けないと、何をどういうふうに要望するのかということが具体的に見えてこない。医療保険の方の訪問看護の時間や回数を増やすように要望していくのか、それとも訪問看護師の人材を確保するように要望するのか、何を要望するのかということがこれではなかなか見えてこない。「要請しなかったもので△」というところの意味がわかりづらいと思いました

■会長

こちらもありやすくしてほしいというご意見ということで承ります。他にございますか。はい。委員。

■委員

すみません。先ほどの話の続きになってしまうのですが、例えば38ページの移動支援を見ていただくと移動支援のD○のところの各年度の書き込まれている数字は、こちらの資料4の方の45ページの移動支援の実績として一致しているので、

移動支援、地域生活支援事業に関しては元々年間の数字で計画と実績を出すというふうになっているので、数が一致しているということだと思っておりますが、居宅介護、給付事業に関しては3月末時点の実績で出すというふうになっていて、まずそこがわかりづらいというところが1点と、実績の数字の出し方が変わっているものに関しては、出す数字を合わせないといけないのではないかと思います。資料3と4の数字が別々のものが出ていますと、何をどう評価していいかわからなくなりますので、各年度の3月末の数字で計画の見込みと実績を出しているものに関しては、こちらのD○のところの数字を出していただかないと比較のしようがないというふうに思いますので、そこについてはなぜそうしていないのか。そうしてもらえるのであればそうした方がいいだろうということを意見として言いたいと思います。それと同時に、例えば移動支援などは平成29年度の実績の数値は実際の計画の時間数よりもこの数字は66.5%に当たっていて、27、28、29年度で少しずつ下がっているという数値が出ています。それでも○でいいのかということも検討した方がいいのではないかと思います。○が付く基準もやっていたから○ということなのか、実際の計画に対してこのぐらいしかサービスが提供出来ていないということも踏まえて、○が△になるというふうなことがありえるのかということもあると思います。そういうことを判断するためにも数字が合っていないと何が何だかわからなくなるということがありますので、まずは数値を合わせるということをしていただきたいと思っております。

■会長

はい。ありがとうございます。今のご意見ということでよろしいですか。

■委員

別になっている理由は何かあるのですか。

■会長

別になっている理由はお答えいただけることがあればお願いいたします。

■事務局

度々で申し訳ないのですが、先ほどの質問でありました通りで移動支援とか、給付の関係の件数など、合っているものがあれば違うものもあるということでご意見いただいておりますが、ここの部分についても担当の方と話をして整理をさせていただいて、どこの時点で捉えるとか、掲載の基準は改めて確認させていただいて必要があれば直していきたいと思っております。

## ■委員

検討してもらえらるということですのでさらに意見として言いますと、本当は全ての支給のサービスについて、ある月の月末の数値で見るということはやめていただきたいです。3月末だけで見るというのはその1点でしか確認しないということなので、1年の間で支給量がどのくらいだったかということは実際にはわからないこととなりますので、前にもこの話をさせていただいたのですが、それは国の基準で計画を作ることになっているからということだったと思うのですが、給付のサービスに関して年度末の3月31日の時点での支給量という見方では実態を反映するようなことになるのだろうかということは非常にわかりづらくなっているのではないかと思いますので、数値の示し方、そのもののやり方を検討していただく余地があるのであれば全ての給付事業に関して年間での支給量ということを見込んで、計画を立ててそれに対して実績がどうなのかということを出していただくというふうに変更していただきたいと思っています。

## ■会長

はい。事務局お願いします。

## ■事務局

今の委員のご指摘は確かに聞いていて、最もだという部分もあるのですが、障害福祉計画に関しては国の方でこういう形で作るということを示されているので、その中で年度末の3月時点での給付実績の数値を求められていますので、障害者計画に関しましては確かに障害福祉計画と一致させるという手法も取り得るかもしれないのですが、他にも高齢介護の計画とか、福祉のまちづくり、地域福祉計画とか、そういった計画と整合性をとって府中市の全体の福祉計画というものを策定していきますので、そこの他の高齢介護ですとかそういった計画における作り込みというのは、この障害者計画の1年間の実績数値という形で示されています。ただ鈴木委員のおっしゃる通りで、評価が障害者計画と障害福祉計画で違うというのは、きちんとそこの部分については整合を取らないといけないというふうに感じております。そういったところで障害者計画と障害福祉計画での作り込みの部分が異なることについてはご理解いただければと思います。いずれにしても事務局の方で改めて検討はさせていただきます。

## ■会長

ありがとうございました。よろしいですか。数字を合わせるということですが、計画については基本指針で示されている部分があるということなので、

#### ■委員

基本指針で示されている出し方で出さないといけないということはもちろんそうなのですが、基本指針にはそれと同時に市区町村独自のやり方で加味することが禁止されているわけではないので、両方出せばいいのではと思います。基本指針で出している数値を出したと同時に府中市が参考として年間の数値を出すというような計画の立て方を出していただくと、いろいろ見る中でもとても役に立つ見やすいものにもなるのではないかと思いますので、その辺りは市区町村の努力として基本指針でも認められている内容だと思しますので、ぜひそれも含めてご検討いただければと思います。

#### ■会長

はい。ありがとうございました。他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言者なし)

#### ■会長

続きまして、目標4をお願いいたします。

#### ■事務局

目標4について、評価が△、×、－のものを説明させていただきます。資料3の86ページをご覧ください。事業番号95番、事業名「障害がある人の技能等の活用」というところでございます。こちらは評価が「×」になっているのですが、偶数年度で実施しているので昨年度は未実施のためというところで評価が×となっております。続きまして88ページ、事業番号97番をご覧ください。こちらは交付実績が昨年度と同様にありませんでしたので、評価を「×」とさせていただきます。備考欄にも書いてあるのですが、団体からの交付希望がなかったため、実績なしというところでございます。続きまして89ページ、事業番号98番をご覧ください。事業名が「当事者団体・家族会の活動への支援、協働」というところでございます。こちら「△」の理由としましては、②のところなのですが実績がなかったため△となっております。説明の途中なのですが失礼します。傍聴の方が見えられましたので、すみませんが98番から説明をさせていただきますので、傍聴の方、入室していただければよろしいでしょうか。

#### ■会長

先ほど承認いただいていますよね。

#### ■事務局

それでは89ページの事業番号98番から「当事者団体・家族会の活動への支援、協働」に戻ります。評価のところが平成29年度は「△」なのですが、こちらに關しましては②のところで事業実績がないためというふうになっております。続きまして、90ページの事業番号99番。事業名「事業者主体の連絡会の設置支援」というところになります。平成29年度の評価が「△」になっているのですが、こちらの理由といたしましては特定相談支援（障害児相談支援）の機関連絡会が事業者主体で運営ができていないためというのが理由となっています。事務局の説明は以上になります。

#### ■会長

はい。ありがとうございました。目標4につきまして、ご質問伺いますが、いかがでしょうか。

#### ■委員

「当事者団体・家族会の活動への支援・協働」の事業実績なしというところで、私のところは精神障害者が家族会なのですが、事業実績なしというのは私どものところは精一杯やっております、事業実績も市の方に登録しております。東京都の福祉会という府中の梅の木会のような事業をきちんとやっているところはございません。これが事業実績なしというのは他のところで事業実績はないのでしょうか。お尋ねしたいと思います。

#### ■会長

団体との協働事業の事業実績ということですが、事務局からお願いいたします。

#### ■事務局

ここでいう協働事業の実施の可能性というところは検討するというところで、充てさせていただきますはおりますが、現状では検討までは至っていないところでございます。他の事業につきまして、まず精神の方の家族会に關しましては今回、実施課題にはなっておりませんがご要望にあるような事業について、市の方でも協力が出来るということがあれば検討させていただいているのですが、実施に至らないというところもございまして、実施に至るようであれば評価は出来ると思いますので、その辺で検討はしているけれどもなかなか実施までは至っていないというような現状がございまして。



■会長

団体毎の活動ではなく、市と団体の協働事業での評価とのことですが、具体的にはどういったものが考えられるのでしょうか。市と団体の協働事業は具体的にどのようなものをイメージされていますか。

■事務局

先日精神の家族会の方と障害者福祉課の精神保健担当の方でも日常的に市民の方の相談に応じて、連携させてもらっているのですが、連絡会をさせていただきました。今後も連絡会を続けさせていただく中で一緒に協働で市民の方に何か取り組みが出来れば、そういったところから協働で活動するものを生み出せたらと思いますので、そういった形で協働活動ということで広げていければ思っております。

■会長

そこを核にして、具体的にはどのような事業をイメージしているのですか。

■事務局

ここでは具体的な事業の目標になっているかと思うので、すでに連絡会などは30年度にやらせていただいていたところではあるのですが、具体的な取り組みというのはそういった日頃の府中市の精神の家族会とのやり取りの中では、課題などの意見交換をしながら取り組みを考えて一緒に協働で出来ることは何があるのだろうかということで企画してやっていければと思っております。

■会長

委員よろしいですか。

■委員

事務局に伺いたいのですけれども、今までの活動では市との協働ではなかったのですね。先日交流会を行いました、そういうことなのですね。私は少し意味がわかりませんでした。

■事務局

29年度まではなかなか連絡会ということも実行出来ていなかったと思いますので、30年度は実行のところその辺りをもしかしたら少し付け加えさせていただくことも出来るのではないかと思いますけれども、そういうことも含めて協働と捉えても、おっしゃる通りよろしいのではないかと思っております。

■会長

いかがでしょうか。

■委員

はい、わかりました。

■会長

ありがとうございました。他に質問等ありましたらお願いします。

(発言者なし)

■会長

よろしいでしょうか。では、時間の制約もありまして申し訳ないのですが、目標5についてお願いいたします。皆さん、目標5の辺りは、その後について重点施策の部分についてもお願いいたします。

■事務局

目標5のまず「△」の評価が2点ございますので、そちらの説明をさせていただきます。95ページの事業番号106番をご覧ください。事業名が「「障害のある人」の表記方法の検討」というところで、障害の「害」の字を平仮名にしたりですとか他の文字にしたりというところについてなのですが、こちらは29年度も28年度と同様に本市では全庁的に法律に基づいて用語を使用しておりまして、その関係でまだ「害」の字に関しては引き続き同じものを漢字で表記させていただいているというところになります。法律で平仮名や他の表記にするとの改定や、他の自治体の動向については今後とも注視したいという考えを持っておりまして、よろしくお願ひいたします。続きまして97ページの事業番号108番になります。事業名が「バリアフリー情報の提供」というところの29年度の評価が「△」となっております。こちらにつきましては、29年度予算を組んだものにつきましては、消耗品のみというところで、平成30年度も予定なしで、それ以降について予定を考えたいというところがございまして、29年度の評価が「△」となっております。最後に施策の進捗状況につきましては、29年度のところを水色で4点掲載させていただいている通りになりますので、そこを含めまして何かご意見があればと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。以上です。

■会長

ありがとうございました。では、目標5と重点施策進捗状況について、ご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。はい、委員。

■委員

せっかくですので、重点施策の進捗状況というところに数字を挙げていただいておりますが、市内のグループホームの定員数が数字として出ておりますけれども、これを障害種別の人数を出していただけると、おそらく知的と精神のグループホームはそれなりに設置が進んでいると思いますが、身体のグループホームはさほど設置が進んでいないと思いますので、その辺も注目して重点施策ですので今後設置の実施に向けるという意味で、ここで一度数字を確認した方がいいのではないかと思います。

■会長

事務局から何かありますでしょうか。おそらく事業指定ですと、主たる障害というのは申請出来ることにはなっておりますけれども、していない場合はこれがどの障害種別のグループホームかという特定は難しいですね。

■委員

はっきりとは分けられないとは思いますが、大まかにどれくらいというのは出てくるのではないかと考えております。

■会長

きっちりではなくてもいいけれども、およその数字で出ないかということでしょうか

■委員

なぜそういうかという、身体のグループホームの設置がなかなか進まないというところがございます。特に重度の身体障害者の方のグループホームというのは圧倒的に数が少ないという現状がありますので、その部分の数字を出来ればどこかで出していただけるといいなと思いました。

■会長

重度肢体不自由の方の受け入れが出来るグループホームの数を知りたいということですね。

■委員

そうです。このうちの何人かというのが知りたいです。

■会長

では、これを今わかれば教えてほしいということですか。それとも今後に向けてですか。

■委員

今後に向けてです。

■会長

ではご意見として、そういった数字がもしわかるようでしたら。

■事務局

確かに市内には身体グループホームもございますので、明記出来るようであればしていく方向で考えていきたいと思っておりますけれども、人数に関しては申し訳ございませんが今把握出来ておりませんので、また改めてお答えいたします。

■会長

おそらく定員という形で明示するのは難しいと思いますが、実態を少し把握して重度肢体不自由の方の生活の場を広げていきたいというご主旨でよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。では、他にいかがでしょうか。はい、委員。

■委員

今のところに関連して、私もこの重点施策の進捗状況のところについてなのですが、数字をこのように出させていただいておりますので、この4点の重点施策に関しては、もう少しコメントをしていただいてもいいのではないかと考えております。29年度の時点でこのような数字になっていることによって、それぞれの重点施策の現状はこのように進んでいるというようなことを、ぜひ今後公表される資料になるのだと思いますので、何らかの形でそういったことを書いていただけると、今の河井委員がおっしゃったようなグループホームに関しては数字としてはこのようになっているが、例えば障害種別でだいぶ身体の方は少ないという現状があるというような、数字を出すだけでなくもう少し現状がわかるようなコメントをそれぞれに関して付けていただきたいと思います。相談支援に関しても、指定特定相談支援事業所の数はそれなりに増えてはおりますが、一方で前回この会議でもセルフプラン

率の話など出ていたと思います。計画相談が実際に実施されている人の数がどのくらいなのかということも同時に書いていただいたりすると、そもそもこれらを重点施策として取り上げた理由もわかると思いますので、そうしたことに関してやはりしっかりとコメントを付けて説明を市民の方にもする必要があるのではないかと考えております。以上です。

■会長

ありがとうございました。数字に対する現状と評価のようなことを報告してというご意見でよろしいですか。他にいかがでしょうか。はい、委員。

■委員

関連してなのですが、特定相談の関係でいうと、資料3の追加資料でもあった項目なのですが、セルフプラン率が依然として高いということが現状としてはそういう表記になると思うのですが、確かに議事録の中でセルフプランの方でも今後とも計画相談を実行したいかどうかというアンケートのようなものを記載されているので、その辺の状況がどうなっているのかということと、事業所数が伸び悩んでいるというところは関連するところでもあると思うので、そこら辺がどうなっているのかというのはコメントいただきたいです。

■会長

ありがとうございました。セルフプランの方の意向や希望と、事業所数の伸び悩みの現状だとかというような内容になっています。では、事務局からお願いいたします。

■事務局

先ほどのセルフプラン率は増えてはいるものの、事業所での作成を希望される方につきましては、数値を今持ち合わせておらず大変申し訳ございませんが、その方々については今現在事業所計画を希望されますかというような案内を送る等しておりますので、数字を出すことは可能だと思います。事業所数については、平成29年度は17ヶ所となっておりますが、平成30年度は今時点プラス3ヶ所で20ヶ所になっておりまして、30年度の目標数に向けては少しずつ近づいていっているのではないかと思いますので、引き続きこちらの相談支援体制の強化を行っていきます。

■会長

よろしいですか。相談については国の会議でも少し話し合っているようですので、

今後に期待したいと思います。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言者なし)

### (3) 府中市障害福祉計画（第4期）の進行管理について

#### ■会長

では、続きまして議事の3番、障害福祉計画（第4期）の進行管理について、事務局からご説明をお願いいたします。

#### ■事務局

それでは前回の資料の4をご覧ください。府中市障害福祉計画（第4期）の進行管理の一覧表で、今回平成29年度の実績を赤字で提示しております。今回平成29年度の3月の集計で記載させていただいておりますので、今日皆さんお持ちかと思うのですが桜色の障害福祉計画（第5期）、障害児福祉計画（第1期）の29年度のこちらの実績は掲載させていただいているのが7月のものとなっておりますので、少し数字が違う点がございます。こちらはご注意ください。障害福祉計画の資料4の1ページの上に記載させていただいております通り、計画量の確保というところでの評価をさせていただいております。計画比が80%以上で◎、60%～79%で○、40%～59%で□、20%～39%で△、19%以下は×としております。数字で進捗状況の評価しております。続きまして、今回初めての方もいらっしゃると思いますので、1点用語の説明をさせていただきたいと思います。2ページと3ページをご覧ください。サービス量のところに、「人日」という言葉がございます。2ページの生活介護のところを例に説明させていただきます。平成29年度の生活介護の実利用人数の実績は513人とあります。続いてご説明させていただくのですが、サービス量は人日の実績が9698日で、こちら日数ですが513人がひと月にサービスを使った日数を合計したものになります。ですから、平均1人約18日～19日利用されたということとなります。事務局からの説明は以上となります。

#### ■会長

では、これについてご質問よろしいでしょうか。いかがでしょうか。

#### ■委員

すみません、とても単純なところですが。1ページの居宅介護の実利用者数の実績が、ここだけなぜか「. 00」なのです。とても些細なことですが、

おそらくこれはいらないと思います。ここは実利用者の人数を表記するところですので、「. 0 0」はおそらく間違えてここだけ入ってしまったのではないかと思います。

■会長

エクセルの位取りが違ったみたいですね。それは一応ご指摘ということですね。他にいかがですか。はい、委員。

■委員

評価が○や□等のところの状況がよくわからなかったので教えていただければと思います。

■会長

事務局からご説明がありましたらお願いいたします。

■事務局

備考欄にも説明を加えさせていただいている部分がございますので、それに倣って例えば△や×や、どういった状況でこうなるのかという理由を少し入れると見やすくなると思います。もう少し検討させていただきたいと思います。

■会長

今後、それを備考欄に記入するなど、今回は理由についてご説明はないということではよろしいですか。では、委員よろしいですか。今後、備考欄に。

■委員

はい。

■会長

他にいかがでしょうか。はい、委員。

■委員

資料の5ページを見ていただきまして、真ん中付近の(5)地域活動支援センターのところなのですが、計画の数に対し実績が300%近くをいっているような数になっておりまして、備考欄のところに「プラザ」だけは実績が登録者数の値になっているということで、少し違う数を出していることになっているようなことが書いて

あるので、これはもう少し説明が必要になるのではないかと思います。計画に対して実績が3倍近い数になっているということもどうなのだろうと思いますし、第5期の方の3か年の計画で今あげられている地域活動支援センターの計画の利用数をすでに29年度の時点で上回ってしまっているような数が出ていますので、この値はどういうものなのだろうかということなのですが、何かコメントがあればお願いいたします。

■会長

はい、ありがとうございました。事務局から回答がありましたらお願いします。

■事務局

こちらの地域活動支援センターの集計の方法につきましては、4センターの中で違う取り方をしていた部分にはまた合わせていく必要があると思いますので、こちらは改めて4センターへ確認させていただきたいと思います。計画値に比べて実績が多いというところがございますが、平成28年度から1か所地域生活支援センター「ふらっと」が増えたことによって、第4期の計画については実績がかなり多くなったというふうに思っております。第5期の計画につきましては、今おっしゃった通り第5期の計画値の方が、すでに実績として超えているところではあるのですが、今後につきましてはニーズがそれだけあると認識しておりまして、ただ集計の方法については、先に回させていただきます。もしかしたら集計の方法によっては数字が違う捉え方ができるのかと思います。

■会長

委員いかがですか。

■委員

集計の方法である程度是正されるのであればいいのですが、そうではなく実際の実績、ニーズがたくさんあるという話になるのだとすると、実施箇所が5か所も要するのかという議論が当然次には出てくると思いますので、計画の中で立てていくというよりも、ニーズとしてはるかに多い理由があるというのであれば、施策として数を増やすということも、次には検討しないといけないということになる重要な点だと思いますので、その辺りも含めてご検討いただければと思っております。

■会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。



(発言者なし)

■会長

よろしいでしょうか。以上ですので、4番のその他に移らせていただきたいと思います。

(4) その他

■会長

事務局からは何か予定していることはありますか。

■事務局

事務局からなのですけれども、今回事前に送らせていただきました資料2の説明をさせていただきます。第1回目の時にお配りしたものと違いにつきましては、事前に送らせていただいております平成30年度から32年度までのスケジュール案をご覧ください。第1回目にも同じような物でお配りしたと思っておりますけれども、次年度ですが会議予定が5回から6回に増加しております。あと32年度の予定なのですけれども、障害者計画の作成時期を、理念や根幹となるものになりますので障害福祉計画などよりも早く作って、その理念をもとに実施などを踏まえ障害福祉計画をとということであったので、会長の意見を参考とさせていただきますが、障害者計画の方は前倒しに作成するようなスケジュールを採らせていただいております。月の下に〇何番というふうに書いてあるところが、会議を予定している月になっております。来年度から本格的な次期計画に向けて動き出すと思っておりますので、会長や副会長ともスケジュールを事務局で合わせてさせていただきます。若干月が前後したりすることがあると思っておりますが、今回目安としてそのように予定をさせていただきますということをご理解、ご承知おきいただければ幸いです。今回このように進行管理につきましても毎年度進行管理を予定しておりますが、計画の作成状況によって進行管理を行う目安としては書かせていただいておりますのですけれども、それも併せて変更になる可能性がありますのでそこもご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。事務局から資料については以上となります。

■会長

ありがとうございました。今年度は3回でしたが来年度は6回、再来年度は10回、ほぼ毎月予定を計画するという相当エネルギーを費やしていて、これは非常に

素晴らしいことだなと私は思うのですけれども、何かスケジュール案についてご質問がありましたらお願いいたします。

■副会長

5回から6回にとおっしゃっていましたが、もともと前回も6回の予定だったと思います。それはそれでよろしいのですが、今回の進行管理でまるまる2日間かけて行っているのを、今度は5月に30年度の進行管理をするという予定になっていますけれども、1回の予定で本当に終わるのか非常に心配です。進め方を変えていくなどするのであれば可能なのかもしれないですが、皆さんの意見を全然聞かないで進めるのはやはりおかしいと思うので、それと今回5月に行うということで31年度の計画の部分を30年度の評価と一緒に多少話していった方が本当は良いのではないかと私自身は思っていて、その辺で回数を増やすのはいかがなものか、5月からの次の7月のところで行えるのか、そういうことが考えられると思うのですけれども、少し検討してもらえればと思います。

■会長

それはご意見ということでよろしいでしょうか。30年度の進捗管理が1回だと少ないのではないかとということでしょうか。それを次の計画に反映させる必要があるので、進め方を工夫した方が良いのではないかとのご意見でしょうか。

■副会長

そうですね。回数を増やしてもいいとは思いますが。それでよろしければ。

■事務局

確かに2日間かかってしまったところもありますので、次回一日で全てが終わるかどうかというところは疑問点がおありかと思しますので、こちらは事務局の方で検討させていただいて調整したいと思います。以上です。

■会長

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

(発言者なし)

## ■会長

スケジュール案についてはよろしいでしょうか。皆さんに今後会議の出席回数を増やしていただけるようお願いすることがあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。もし委員の皆様からご意見等ありましたら。求めるのは最後となります。はい。委員。

## ■委員

前回の第2回の会議を欠席してしまいましたが、議事録を見させていただいたところ、かなり相談支援の話がたくさんしていただいていたようで、1つ思ったのがこちらに出てきている資料だけではなくて、府中市の自立支援協議会でも実は相談支援に関しては、平成28年度にかなり詳細なアンケートと分析を行っているのですね。それは今でも自立支援協議会のホームページに掲載されているものです。今年度の30年度に関しては就労支援の部会の方でもかなり詳細な報告書を出しているような資料が自立支援協議会の活動としてありますので、もちろんそれは計画の全てのことをあちらで話しているわけではないですけども。分野によっては自立支援協議会で実際にすでに話されていて、かなり分析も進んでいて、課題と改善点が提言されているようなものもありますので、ぜひそういった資料をこちらの会議でも共有したりすることが出来れば、より連動性が高まるのではないかなと思いました。それは事務局の方の判断になるのか、それこそ自立支援協議会としての30年度の答申をこの間まとめましたので、そういったものを次回最初にこちらでも配っていただいて自立支援協議会として皆さんに目を通していただくとか、そういったことが今後必要なのではないかと思います。もちろん31年度以降も自立支援協議会をやりますので、常々あちらではこういうことを今行っているというようなことが、連動して資料を共有することが出来るということを進めていけるといいのではないかと思います。以上です。

## ■会長

ありがとうございました。この会議と自立支援協議会の連動というのは非常に重要なことだと思いますが、この中で自立支援協議会のメンバーの方はいらっしゃいますか。結構いらっしゃるのですね。そうすれば是非ご意見については自立支援協議会の理念を踏まえてご発言いただければと思います。そういった資料の共有というのは重要なことだと思いますけれど。いかがでしょうか。

(発言者なし)

■会長

まだ時間があるのですが、もう最後なので一言ずつ感想を述べていただいて、大丈夫ですか。ではまだ今日ご発言いただいてない方もいらっしゃいますので、ご発言がなかった方に一言ずつ会議の感想をお願いします。全員だと時間が足りないと思いますので。ではマイクをまわします。委員。

■委員

資料を拝見していますと、書式についてが、1つのポイントで全部埋め尽くされていて重要なものを大きく、あるいはゴシックで表記されていることもないので、これはすごく事務能率が上がると思うのですが、どこかを閲覧してくださいという時にせめてこのページと事業ナンバーですか。その列だけでも大きくしていただけると見やすいのではないかと思います。

■会長

探すのが大変ですものね。ありがとうございました。

■委員

私は公募なのですが、皆さん専門的な方が多いので、これまでいろいろ聞いていて勉強させていただいているような部分があるのですが、これから5月の過去のことが終わって今度は新しくどういったプランを出していくかということになると思います。ただその時にもう少し進行も含めてまとめていけるような感じにしていければいいと思います。バラバラといいますか、今は枝葉ばかりを行っているようなイメージを持ってしまう。まとまった幹のようなものがあって、そこに枝をつけながら話が進んでいくような感じがあるともう少しスムーズに進められると思います。

■会長

ありがとうございました。

■委員

いろいろありがとうございました。私も当事者ではないので、いろいろ皆様に伺いながら勉強しておりますけれども、私は前期の途中から入れていただきましたけれども、進捗状況といいますか、計画の進行管理に丸を付けたり、評価をするという、この数字をどういうふうにとらえるのかということがやはりよくわからなくて、今日質問したかったのですが、最後の児童発達支援ですとか、実績と計画比と

人数、人日に関して、人数に対してのこの数字というのは、今日いただいているこの進行管理一覧表の「資料3」の2に載っている数字とここに上がっている数字というのは関連性があるのか無いのか、というここにいろいろと進行管理一覧表で事業に関して数字を出していただいているのですけれども、その中のどこかを合計すればここに実績という数字が出るのかがわからなかったのも、また次回でもお時間があれば教えていただければと思います。それからスケジュール表で31年度の真ん中の※の後ろにある「アンケートは前障害者計画を参考に、市民、」で後が書いてないのですけれども、どういう意味なのでしょう。あと参考資料で計画のアンケートですよ。前回に出されたアンケート調査というのを見ていただいたのですけれども、これは障害者に向けてお答えくださいというものなので、普通の健常者に向けてではないので、やはり文言ですとか内容にもう少し配慮があっているのではないかと思います。以上です。

#### ■会長

ありがとうございました。ご質問最後まで事務局に聞いてみましょう。アンケートについては相談してみます。次年度概要説明等はないようなので。桑田委員。

#### ■委員

私の方は自立支援協議会の副会長という立場ですけれども、障害者福祉センターの就労支援センター長もしております。自立支援協議会で児童発達支援センターについても答申が出ているということで、そこは入り口のところがやっとなできて、こちらの計画にもしっかり数値が出ているのですけれども、私も児童の方に関わっておりましたので、やっとな進んだなと思っております。次はやはり出口といいますか、就労のところだと思うのですけれども、それで今就労支援部会の方にも入らせていただいておりますが、その部分ではこちらの数値目標がどうしても福祉サービスだけの数値になっておまして、私どもは東京都の委託事業を府中市からいただいているということで、その辺のところは全然ここには出てきていないところが、就労支援センター如何にというところが、計画に全く出ていないことがどうなのだろうか。本当に学校から就労した後、障害のある方が地域で生き生きと生活するためにご自身で働いて、自分で生活を組み立てるところの部分での長いスパンでの支援になりますので、そこも何か盛り込めればいなというところで、今就労支援部会で高橋委員が部会長をさせていただいておりますので、それも生かしていただきながら計画で出来ればよいと思います。よろしくお願ひします。

## ■会長

それでは次計画の時にぜひその意見をお願いします。

## ■委員

いろいろとありがとうございます。私も府中市にお世話になっている府中けやきの森学園で2年間でしたが、事業計画についてここまで詳しくいろいろなサービスをされているというのを改めて見させていただいて、徐々に充実していることも実感しました。今後32年度のまとめのところまで障害のある方がますます学校の中でも、本校もとても数が多いので、ぜひ充実していただきたいというふうに思っております。それです、事業ナンバーの88の福祉避難所をしているところはここには私、何も言わなかったのですけれども79ページのところ。これについては今後課内で検討ということで本年度です、2月で実はこの2月28日の日に障害者福祉課と協定書を提出しました。実は、私も既にそんなことは終わっているものだと思っていて。本校もずっと長年この府中市にある学校ですので、40年ですかね、検討する検討するという毎年そのようなかたちで実際はどう検討されたのかなど。本校としては実は私、積極的に府中市さんと連携しないといけないよということで、担当者いろいろ話していて今回ちょうど機会があるということだと思っております。なかなか待っていても進まないものもあるわけで、ぜひそのあたりを検討するという中身だけだと周りの者が何を検討しているかさっぱり分からない、いろいろな意味で積極的に進めていただくことが大切かなと思っております。コメント検討していてもなにも待っていても来ないということがあるわけですから、ぜひそのような姿勢でしていただくのがいいのかなと思っております。ですので、今後障害のある方それからその家族の皆さんについては、本校が受け入れをするというようなかたちになっております。当然府中市さんと連携して進むということで、私達も心構えをして災害が起きた時の対応をしていきたいと思っております。もう一つなのですけれども、先ほど委員からグループホームの話があって身体のグループホームどれくらいですかという話をいただいた時に、少くらくらいということを知りました。本校も卒業式が終わりまして肢体不自由の子供達そして知的障害の子供達も多く卒業していています。特に肢体不自由の子供達の行き先が非常に困難で、進路先も困難で、どうしても肢体には不自由があっても、能力の高い子供達たくさんいるのですけれども、受け入れ先がちょっと厳しくて、本当はもっといい仕事とか受け入れ先のところに行っていたきたいのですけれども、なかなか現状厳しいかなというようなところ。要するに本人の能力がぴったり合っているとは思われないところに行っているという実態もでございます。ぜひそのあたりを充実していただけるとありがたいです。以上です。

■会長

では委員お願いします。

■委員

私はやはり自立支援協議会の方の委員をさせていただきました、昨年児童発達支援センター部会長をやらせていただきました。それでやはりそういう情報というのをこの場でも共有していきたいと思います。あともう一つ、私自身が障害のある子供の親で、もう娘が46歳になりまして、すごいライフステージの入口も出口もあれば、もう就労の先の高齢者になって、次に。そうすると私は介護支援専門員でもありまして、障害者であり高齢者というところの問題というのがやはり現場でとても大変なところがあります。ですので、本当にライフステージごとに。それともう一つは、障害者といっても本当に一人ずつ違うのですね。障害種別もあれば、重複障害、うちの娘は四つ障害が重複しているのですけれども、そういうふうな一人一人の人間というところを考えながら、そういう人たちがこの世の中でどうやって暮らしていけたらいいのかなというのが先ほど言った基本の根っこのところ、幹なのだと思います。そのためその幹に対しての枝葉のところもとても大事なのではないかなと思いますので次年度の計画の委員会も非常に期待しております。はい、ありがとうございます。

■会長

はい、ありがとうございました。委員。

■委員

自立支援協議会の方では、就労支援の方をやらせていただいております。就労支援の方で、とにかく支援をする人が足りないということやっているのですけれども、今回の計画の中でも福祉サービスはどんどん伸びている中で、やはり支援をする方の人たちが足りない、または減らされている現状もあるのかなというところで、計画を立てた中にこの中では話し合えないかもしれないのですけれども、支援をする人の充実を考えていただければいいのかなと思いました。ありがとうございました。

■会長

ありがとうございました。では委員。

■委員

私はですね、児童発達支援が専門なので色々とサービスの数字が上がってきているのですけれども、やはりお子さんの支援の場合は質が大事なので、計画の中で質をきちんと取り上げるような態勢を整えて下さったら嬉しいなと思いますので、次回の会はそういう意見をたっぷり言いたいと思います。ありがとうございました。

■会長

はい、ありがとうございました。文書が切れちゃっているものもあります。

■事務局

失礼しました。資料2の31年度のところの大きな方の四角です。⑤から⑨のアンケートについてのところの2つ目の※、一番左の※なのですが、アンケートは前障害者計画を参考に市による障害福祉サービス事業者と障害者福祉団体。抜けているのが障害福祉サービス事業者の障害福祉団体ですね。そちらの方にアンケート実施を考えているというところまでございまして、その文言をすみませんが入れていただければと思います。併せてなのですが、今回事前資料として参考資料で前回の計画策定時の今回の今行っている計画を策定した際のアンケートの方の実物のご用意を送らせていただいております。また次年度以降アンケートの内容については、コンサルタントの業者さんが今日お話をする中で具体的な意見として、皆様何かイメージがつかめればなというところで事前配布しておりますので、ご参考に活用していただければと思います。事務局からは以上です。

■会長

はい、ありがとうございました。一応時間内にすべての議事が終わりました皆さんご協力大変ありがとうございました。最後に事務局から次回のことをお願いします。

■事務局

(※ 事務連絡)

事務局からは以上です。

■会長

では今日は時間管理のベルを1度も使われることなく時間通りに進行できまして



皆様のご協力に感謝いたします。次年度からは次の計画のほうが始まりますけれども、皆さんご協力をよろしく願いいたします。どうも皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。